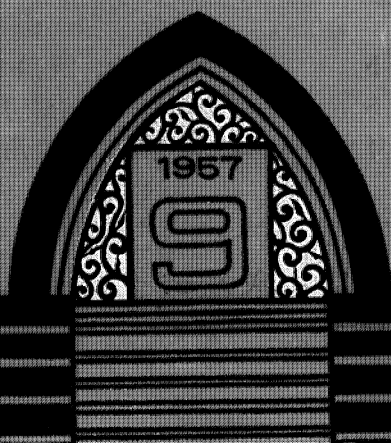




日本大学



工科校友会

目 次

校友会誌とその編輯の限界	松田勘次郎	2
上毛の校友	落合林吉	3
薬学科について	黒柳惣十	4
日大原子力センターの構想	古田理事長	5
私大は大同団結せよ	“ ”	6
欧米飛びある記	木村秀政	7
米国留学記	植之原道行	11
斎藤鉄工所を訪ねて	斎藤富蔵・西彪雄・亀井幸次郎他	14
工学部学生の活動	学生自治会	20
地方支部便り		24
大阪, 福岡, 群馬, 東京都水道局, 兵庫県, 神戸駿建会, 東京都建築局, 山形, 岩手, 鹿児島, 建和会,		
終身会費納入者芳名録		31
編集後記		32

編集後記

会誌『桜工』の前身とも称すべきものに『桜工』という毎月発行の会誌があつた。これは土木、建築、機械、電気など、各科卒業生の研究論文や実験報告をはじめ在学生の相撲、柔剣道、ボート部などの体育関係や、詩、俳句、音楽、映画部などの文化部関係の記事がたくみに編集されていた。従つて私としては当時一番有益なそして、親しみのある会誌であつた。『桜工』も三委員に期待される会誌としなければならないと想う。他の大学の校友会誌の発行状況を調査してみると、毎月発行しているところはないようであるが、毎月発行が出来るようにしたいものである。これには運営費の増額と全会員の投稿の「」とが必要である。『桜工』発展のため全会員の御協力を希望する次第である。(I)

独乙の諺に「俊姿は女学生、前は博物館」と云うのがある。我国で云う「夜目遠目傘の内」のたぐいである。

特に欧米の御婦人は年を取る程赤つばい色の服を着用するので俊姿を一見に及ぶと、如何にも若々しく見えるが前に廻つて拝顔の榮に浴すると古色蒼然に博物館ものと云う事であるらしい。俊姿の印象と云う事は洋の東西を問わず共通するニュアンスがある様で面白い。

自動車も通常はスピードがあるので、前方の手の込んだ発動機グリル等は其の割には印象が薄い、之に引き替え後塵をすかして中腹でにらむ車の俊姿は妙に忘れ難い強烈な印象を残すもので、この為デザイナーも特に頭をしぼると聞いた事がある。

編集委員会の回を重ね、刷り上げた本誌を手にした時の気分は、すつきりしたデザインの良い車の俊姿を

眺める時の気分に通ずるものがある。

刷り上げるまでは絶えず心の何処かでしこりを造り、後から追いかけて居る様な気分であるが、その得体の知れない怪物から上手に身をかわして前方に押しやつてしまつた様なほつとした開放感と、後からとつくりと眺めては手前味噌ながら思いのみの出来ばえとニタリする醜態味である。桜工も巻を重ねる毎に充実し、しみじみと俊味の好い記事が多くなって来た事は嬉しい。これと共に先輩校友諸兄の関心は学園内と学生諸君の動向で、学生会員もここ一番奮起して大いに若い世代の思考を記事にしてもらい度い。(O)

昨今技術革新(イノベーション)という言葉が盛んにいわれている。

この言葉は第二次大戦以後の原子核エネルギー開放に関連せる一連の技術的進歩を中心とし、最近の産業界のオートメーションの発展を指す事でしょうが、この技術革新は文字通り日進月歩です。

校友諸兄がこの推進力となられておられる活躍振りが日本各地から桜工の編集委員会に今回も続々と寄せられ、ご同慶に堪えぬ次第です。

今後共どうしお報らせ頂き度いですね。(I・A)

編集をやつていてなにか嬉しいかといへば、依頼した原稿が約束した

日時に到着した時であります。それと反対に来ると思つた原稿がメ切になつても来ない時程編集子をあわてさすことはありません。

この同窓会誌としての「桜工」の発展は、一に校友諸兄が原稿を送附するか否かに懸つているといつても、あながち言い過ぎでもないであろう。

9号も、種々と有よ曲折し漸く校友の御手許にとどけることが出来る段階に達しホットしたわけでありませう。第10号は是非共、おくれを取りもどしたいと思つています。なお、校友諸兄の経営する事業所及び研究所等の紹介に努め、校友の活躍を在校の校友に知らしめたいと存じます。従つて地方の校友諸兄のこの方面の通報を特に期待しています。

(K)

待望久しき工科校友会名簿昭和32年版は十二月初旬配本開始、希望者は校友会事務局に申し込まれ度

桜工 第9号

昭和32年12月2日 印刷

昭和32年12月5日 発行

編集人 藤田 實

発行人 高木 政司

東京都北区中十条3ノ23

印刷所 協永堂印刷KK

電話(91)2124番

東京都千代田区神田駿河台1ノ8

発行所 日本大学工科校友会

電話東京(29)7711 代表9番

振替口座東京162710番